

専門基礎分野

○疾病の成り立ちと回復の促進

- ・病理学
- ・治療論
- ・疾病治療論 I
- ・疾病治療論 II
- ・疾病治療論 III
- ・疾病治療論 IV
- ・疾病治療論 V
- ・疾病治療論 VI
- ・疾病治療論 VII
- ・疾病治療論 VIII
- ・疾病治療論 IX
- ・臨床検査
- ・薬理学
- ・微生物学
- ・栄養学

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	病理学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 病気の成り立ちや人体に起こる病的な現象を理解できる。</p> <p>目標: 1 疾病を引き起こす内因・外因を理解できる。 2 臓器、組織、細胞等にかかる構造と機能の変化を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 講義ガイダンス 2 病理学とは 3 疾病の様々な原因	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	4 病理診断(組織診・細胞診)、病理解剖の概要	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
3	5 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝子異常 2) 染色体異常	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	6 代謝障害 1) 細胞の障害と適応 2) 物質沈着 3) 脂質代謝障害	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	4) タンパク質代謝障害 5) 糖質代謝障害 6) その他の代謝障害		
6	7 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 局所性の循環障害	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	3) 全身性の循環障害 4) リンパの循環障害		
8	8 炎症と免疫、膠原病 1) 炎症 2) 免疫	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
9	3) アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 4) 移植と主要組織結合複合体		
10	9 感染症 1) 病原体と感染症 2) 宿主の防衛機制	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
11	3) 主な病原体と感染症		
12	10 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生病理	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
13	3) 悪性腫瘍の転移と進行度		
14 (3h)	11 老化と死 1) 加齢に伴う諸臓器の変化 2) 個体の死	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
	試験		

履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり
評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学
参考文献	講義の中で紹介する。
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 各回の関連をもって学ぶこと。 生化学・形態機能学の知識も必要であるため、復習しておく。
備考	

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	治療論	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
目的: 疾病に対する診断と治療についての基礎的知識を習得する。			
目標: 1 異常状態を判断するための診断過程を理解できる。 2 治療法の種類と治療における生体の反応について理解できる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 治療法の概要 1) 疾病の診断の基礎 2) 疾病の治療法の種類と概要(生体の反応を含む)	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
2	2 麻酔法 1)麻酔法の基礎 2)全身麻酔と生体反応 3)局所麻酔と生体反応	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
3	3 手術療法 1)手術療法の目的と意義 2)外科診断法 3)外科手術手技・処置の基本	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
4	4)外科的侵襲と生体の反応 5)手術経過とその管理	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
5	(1)術前・術中・術後の管理 (術後合併症の発生要因・予防・治療を含む)		
6	4 がん薬物療法(化学療法) 1)がん薬物療法(化学療法)の基礎 2)がん薬物療法(化学療法)による副反応(有害事象)と合併症 3)がん薬物療法(化学療法)の標準治療計画 4)抗がん薬を取り扱う者の曝露対策	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
7	5 放射線療法 1)放射線の種類と特徴 2)放射線診断 3)放射線治療の原理・基礎特徴と目的・種類 4)正常組織の有害反応と有害事象への対策	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験		
テキスト	メヂカルフレンド社 治療法概説		
参考文献	医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 臨床放射線医学 メディックメディア がんがみえる		

履修上の留意事項	講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。
備考	専門分野の基礎知識となる科目であるため主体的に学習すること。

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論 I	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的: 呼吸器における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。</p> <p>目標: 1 呼吸器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 呼吸疾患の病態生理、症状、診断・治療 1)炎症性疾患 (1)気管支炎	準備:形態機能学 I [「息をする」を支える形態と機能]について復習し、呼吸器の炎症性疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	(2)肺炎 (3)間質性肺炎 (4)胸膜炎		
3	2) 気管支喘息	準備:気管支喘息についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	3) 慢性閉塞性肺疾患<COPD>	準備:慢性閉塞性肺疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	4) 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症)	準備:形態機能学Ⅲ[流動の原動力]について復習する。肺循環障害についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
6	5) 肺結核 6) 気胸	準備:肺結核および気胸についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	7) 腫瘍(肺癌、中皮腫)	準備:呼吸器の腫瘍についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 成人看護学[2] 呼吸器		
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 呼吸器		
履修上の留意事項	呼吸器系の正常構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。		
備考			

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論Ⅱ	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
目的: 循環器における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。			
目標: 循環器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 循環器疾患の病態生理、症状、診断・治療 1)虚血性心疾患 (1) 経皮的冠状動脈インターベンション (2) 冠動脈バイパス術		準備:形態機能学Ⅲ[流動の原動力] について復習する。 虚血性心疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
2	2)心不全		準備:心不全および血圧異常についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
3	3)血圧異常		
4	4) 不整脈		準備:不整脈についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
5	5) 弁膜症 6) 心膜炎(心タンポナーデ)		準備:弁膜症および心膜炎についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
6	7) 心筋症 8) 肺性心		準備:心筋症および肺性心についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
7	9) 閉塞性動脈硬化症、急性冠症候群、大動脈瘤・大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、Buerger(バージャー)病、高安動脈炎 10) 静脈瘤・静脈血栓症		準備:循環器疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 成人看護学〔3〕 循環器		
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 循環器		
履修上の留意事項	循環器系の正常構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。		
備考			

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論Ⅲ	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的: 消化器における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。			
目標: 消化器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 消化器疾患の病態生理、症状、診断・治療 1)食道の疾患 (1) 胃食道逆流症(GERD) (2) 食道がん ア 手術による合併症とその機序		準備:形態機能学Ⅱ[「食べる」を支える形態と機能]について復習する。食道の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
2	2)胃・十二指腸疾患 (1) 胃炎 (2) 胃・十二指腸潰瘍 (3) 胃がん ア 手術による合併症とその機序		準備:胃・十二指腸疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
3	3)腸および腹膜疾患 (1) 過敏性腸症候群(IBS) (2) 慢性便秘症 (3) 腸炎(潰瘍性大腸炎・クローン病) (4) 腹膜炎、ヘルニア (5) 虫垂炎		準備:腸および腹膜疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
4	3)腸および腹膜疾患 (6) 腸閉塞症、イレウス (7) 消化管憩室 (8) 大腸ポリープおよびポリポシス (9) 腫瘍(大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌) (10) 肛門疾患(痔瘻)		準備:腸および腹膜疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
5	4) 肝臓・胆嚢の疾患 (1) 肝炎(脂肪肝、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎) (2) 肝硬変症、肝不全 (3) 肝(臓)がん (4) 胆石症 (5) 急性胆嚢炎および胆管炎 (6) 腫瘍(肝がん、胆嚢がん、胆管がん)		準備:肝臓・胆嚢の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
6			
7	5) 膵臓の疾患 (1) 膵炎 (2) 膵がん		準備:膵臓の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験		

テキスト	医学書院 成人看護学[5] 消化器
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 消化器
履修上の 留意事項	消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。
備考	

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論Ⅳ	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
単位数(時間)	1単位(20時間)	開講年次	1 年次後期
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的:脳神経、運動器における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。			
目標: 1 脳神経系疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。 2 運動器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 脳神経系の疾患の病態生理、症状、診断・治療 1)脳血管障害 (1)脳内出血 (2)くも膜下出血 (3)脳梗塞 (4)もやもや病	準備:形態機能学Ⅰ[「動く・活動する」を支える形態と機能]、形態機能学Ⅳ[「コミュニケーション」「眠る」「お風呂に入る」「身だしなみを整える」を支える形態と機能]について復習する。 脳神経系の疾患(左記単元の疾患)についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷 4) 頭蓋内圧亢進症		
3	5) 末梢神経障害 (1)ギラン・バレー症候群 (2)顔面神経麻痺 6) 脱髄・変性疾患 (1)多発性硬化症 (2)パーキンソン病	準備:末梢神経障害および脱髄・変性疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習し、学習ノートに追加する。	
4	7) 認知症 (1)アルツハイマー病 (2)血管性認知症 (3)レビー小体型認知症 (4)前頭側頭型認知症 8) てんかん 9) 感染症 (1)脳炎 (2)髄膜炎	準備:形態機能学Ⅳ[高齢者のからだ]について復習する。認知症、てんかん、感染症についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	2 運動器系の疾患の病態と検査・治療	準備:形態機能学Ⅰ[「動く・活動する」を支える形態と機能]、形態機能学Ⅳ[高齢者のからだ]について復習する。骨折、脱臼・捻挫についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
6	1) 骨折 2) 脱臼・捻挫		
7	3) 脊髄損傷 4) 神経・筋疾患 (1)重症筋無力症 (2)筋ジストロフィー筋萎縮性側索硬化症	準備:形態機能学Ⅰ[「動く・活動する」を支える形態と機能]、形態機能学Ⅳ[「コミュニケーション」「お風呂に入る」「身だしなみを整える」を支える形態と機能]、形態機能学Ⅳ[高齢者のからだ]について復習する。 運動系の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
8	5) 変形性関節症 (1)変形性股関節症 (2)変形性膝関節症 6) 炎症性疾患 (1)骨炎 (2)骨髄炎 (3)関節炎 7) 腰痛症 (1)椎間板ヘルニア (2)腰部脊柱管狭窄症		
9 (3h)	8) 腫瘍 (1)骨肉腫 (2)軟骨肉腫	準備:運動器の腫瘍についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
	試験		

履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり
評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 成人看護学〔10〕 運動器
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 脳・神経 メディックメディア 病気がみえる 運動器・整形外科
履修上の留意事項	脳神経、運動器系の正常構造と機能を理解し、主な脳神経、運動器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。
備考	

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論V	単位数(時間)	1単位(20時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的:腎泌尿器、生殖器系における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。</p> <p>目標:1 腎臓・泌尿器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。 2 生殖器系の疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 腎泌尿器系の疾患の病態と検査・治療 1) 腎不全 (1)急性腎不全 (2)急性腎障害 (3)慢性腎不全 (4)慢性腎臓病	<p>準備:形態機能学Ⅱ[「トイレに行く」を支える形態と機能]について復習する。 腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、腎泌尿器系の全身性疾患による腎障害についてテキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>	
2	2) ネフローゼ症候群 3) 糸球体腎炎 4) 全身性疾患による腎障害		
3	(1) 糖尿病性腎症 (2) ループス腎炎 (3) アミロイド腎症		
4	5) 尿路・性器の感染症 (1)腎盂腎炎 (2)膀胱炎 6) 排尿・蓄尿障害 (1)過活動膀胱 (2)腹圧性尿失禁 (3)夜尿症 (4)前立腺肥大症 7) 尿路結石症 (1)腎結石症 (2)尿管結石症 8) 男性生殖器の障害 (1) 男性生殖機能障害 (2) 男性不妊症	<p>準備:形態機能学Ⅱ[「トイレに行く」を支える形態と機能]、形態機能学Ⅳ[子どもを生む/高齢者のからだ]について復習する。 尿路・性器の感染症、排尿・蓄尿障害、尿路結石症、男性生殖器の障害についてテキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>	
5	9) 尿路・性器の腫瘍 (1)腎がん (2)尿管がん (3)膀胱がん (4)前立腺がん (5)精巣腫瘍	<p>準備:尿路・性器の腫瘍についてテキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>	
6	2 生殖器系の疾患の病態と検査・治療 1) 女性生殖器の障害 (1) 膣炎 (2) 子宮疾患 ア 子宮筋腫 イ 子宮内膜症 ウ 子宮体がん エ 子宮頸がん	<p>準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための調節機構]、形態機能学Ⅳ[子どもを生む/高齢者のからだ]について復習する。 女性生殖器の障害についてテキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>	
7	2) 卵巣疾患 (1)卵巣嚢腫 (2)卵巣がん		
8	3)月経異常・月経随伴症状 4)不妊症・不育症 5)高齢女性に起こりやすい女性生殖器疾患	<p>準備:女性生殖器の障害についてテキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習し、学習ノートに追加する。</p>	
9 (1h)	(1)更年期障害 6)性感染症(STD)		

10	7)乳房疾患 (1)乳腺炎 (2)乳腺症 (3)乳がん	準備: 乳房疾患についてテキストを読む。 復習: 授業内容を復習し、学習ノートに追加する。
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験	
テキスト	医学書院 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 成人看護学[9] 女性生殖器	
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 腎・泌尿器 メディックメディア 病気がみえる 婦人科・乳腺外科	
履修上の 留意事項	腎泌尿器、生殖器系の正常構造と機能を理解し、主な腎泌尿器、生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。	
備考		

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論VI	単位数(時間)	1単位(20時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的:代謝・内分泌、血液・造血器における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。			
目標:1 代謝・内分泌系の疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。 2 血液・造血器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 内分泌疾患の病態と検査・治療 1) 間脳・下垂体疾患 (1) 成長ホルモン (2) 尿崩症 2) 甲状腺疾患 (1) 甲状腺機能亢進症 (2) 甲状腺機能低下症 (3) 甲状腺炎) 3) 副甲状腺(上皮小体)疾患	準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための調節機構/液性調節/ストレスと恒常性維持]、生化学、治療論、臨床検査について復習する。 間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	4) 副腎皮質・髄質疾患 (1) アルドステロン症 (2) クッシング症候群 (3) 褐色細胞腫 5) 腫瘍 (1) 下垂体腫瘍 (2) 甲状腺癌	準備: 副腎皮質・髄質疾患、腫瘍(下垂体腫瘍、甲状腺癌)についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
3	2 代謝疾患の病態と検査・治療 1) 糖尿病 2) 脂質異常症	準備:代謝疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	3) 肥満症、メタボリックシンドローム 4) 高尿酸血症、痛風 5) ビタミン欠乏症		
5	3 血液・造血器疾患の病態と検査・治療 1) 赤血球系の異常 (1) 鉄欠乏性貧血 (2) 巨赤芽球性貧血 (3) 溶血性貧血、 (4) 二次性貧血 2) 白血球系の異常 (1) 白血球減少症	準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通]、生化学、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 赤血球系の異常、白血球系の異常についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
6	3) 造血器腫瘍 (1) 白血病 (2) 骨髄異形成症候群	準備: 造血器腫瘍についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	(3) 悪性リンパ腫 (4) 多発性骨髄腫		
8	4) 出血性疾患 (1) 血栓性血小板減少性紫斑病<TTP>	準備:血液・造血器疾患の出血性疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
9	(2) 免疫性血小板減少性紫斑病<ITP>		
(3h)	(3) 播種性血管内凝固<DIC>		
	試験		

履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり
評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 成人看護学〔4〕 血液・造血器
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌 メディックメディア 病気がみえる 血液
履修上の留意事項	代謝・血液系の正常構造と機能を理解し、主な代謝・血液疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。
備考	

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論Ⅶ	単位数(時間)	1単位(20時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 免疫、感覚器疾患(眼科、耳鼻咽喉)、歯・口腔器疾患・皮膚疾患における疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。</p> <p>目標:1 免疫系疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。 2 感覚器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。 3 歯・口腔器疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。 4 皮膚疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 免疫系の疾患の病態と検査・治療 1) アレルギー (1) アナフィラキシーショック (2) 花粉症(アレルギー性鼻炎) (3) 蕁麻疹 (4) 接触皮膚炎	準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通/恒常性維持のための調節機構]、生化学、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 アレルギー疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	2)自己免疫疾患 (1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス(SLE) (3) Sjögren(シエーグレン)症候群	準備:自己免疫疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
3	(4) 全身性強皮症 (5) 多発性筋炎、皮膚筋炎 (6) Behçet(ベーチェット)病	準備:自己免疫疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	2 感覚器系疾患の病態と検査・治療 1)眼の疾患 (1) 機能の障害 ア 屈折の異常 イ 調節の異常 ウ 色覚の異常 エ 弱視 オ 眼位・眼球運動の異常	準備:形態機能学Ⅳ[コミュニケーションを支える形態と機能]、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 眼の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	(2) 白内障 (3) 緑内障 (4) 網膜剥離		
6	2)舌・耳鼻咽喉の疾患 (1)耳に現れる病態と検査・治療 ア 難聴 イ Ménière(メニエール)病 (2)鼻に現れる病態と検査・治療 ア 嗅覚障害	準備:舌・耳鼻咽喉の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	(3) 口腔、唾液腺、咽頭・喉頭に現れる病態と検査・治療 ア 炎症疾患(咽頭炎、扁桃炎) イ 味覚障害 ウ 腫瘍(舌がん、咽頭がん)		

8	(4)歯・口腔器系疾患の病態と検査・治療・治療 ア う歯 イ 歯髄炎 ウ 歯周疾患 エ 歯周炎	準備:形態機能学Ⅱ[「食べる」を支える形態と機能]、病理学、治療論、臨床検査について復習する。歯の疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
9 (3h)	1 皮膚疾患の病態と検査・治療 1) 表在性皮膚疾患 (1) 湿疹 (2) 皮膚炎 ア アトピー性皮膚炎 イ 接触性皮膚炎 ウ 脂漏性皮膚炎 (3) 蕁麻疹 (4) 薬疹 2) 物理・化学的皮膚障害 (1) 光線過敏症(慢性光線性皮膚炎) (2) 熱傷 3) 腫瘍 (1) 肥厚性瘢痕(ケロイド) (2) 有棘細胞癌 (3) 基底細胞癌 (4) 悪性黒色腫 (5) 色素性母斑 4 感染症疾患 (1) 白癬 (2) カンジダ症 (3) 蜂窩織炎 (4) 帯状疱疹 (5) 疥癬	準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通/恒常性維持のための調節機構]、形態機能学Ⅳ[お風呂に入る・身だしなみを整えるを支える形態と機能]、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 表在性皮膚疾患についてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験	
テキスト	医学書院 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 成人看護学[13] 眼 医学書院 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 成人看護学[12] 皮膚 医歯薬出版 新 看護学生のための歯科学	
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 病気がみえる 眼科 メディックメディア 病気がみえる 脳・神経 メディックメディア 病気がみえる 耳鼻咽喉科 メディックメディア 病気がみえる 皮膚科	
履修上の留意事項	免疫系・感覚器・歯口腔・皮膚の正常構造と機能を理解し、主な免疫系・感覚器・歯口腔・皮膚疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。	
備考		

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論Ⅷ	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的: 新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけておこりやすい疾患の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。			
目標: 1 子どもにおこりやすい疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 子どもにみられる主な健康障害の病態生理、症状、診断・治療 1) 染色体異常をもつ子ども (1) 常染色体異常;ダウンス症候群 (2) 性染色体異常 2) 低出生体重児の子ども (1) 脳室内出血 (2) 呼吸窮迫症候群 (3) 未熟児網膜症	準備:形態機能学Ⅳ[子どもを生む/子どものからだ]、生化学、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 染色体異常をもつ子ども、低出生体重児の子どもについてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	3) 代謝・内分泌疾患をもつ子ども (1) 先天代謝異常症 (2) 周期性嘔吐 4) 免疫・アレルギー疾患をもつ子ども (1) 食物アレルギー (2) アトピー性皮膚炎	準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通/恒常性維持のための調節機構]、疾病治療論Ⅵ・Ⅶについて復習する。 復習:授業内容を復習する。	
3	5) 感染症をもつ子ども (1) ウィルス感染症 ア 麻疹 イ 水痘 ウ 流行性耳下腺炎 エ 突発性発疹 オ 急性胃腸炎 カ インフルエンザ キ RS ウィルス (2) 細菌感染症 ア 百日咳 イ ジフテリア ウ 結核 エ 溶連菌	準備:形態機能学Ⅰ・Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通/恒常性維持のための調節機構]、生化学、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 感染症をもつ子どもについてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	6) 循環器疾患をもつ子ども (1) 先天性心疾患 ア ファロー四徴症 イ 心室中隔欠損症 (2) 川崎病	準備:形態機能学Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通/恒常性維持のための調節機構]、生化学、病理学、治療論、臨床検査・疾病治療論Ⅱについて復習する。 循環器疾患をもつ子どもについてテキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	7) 消化器疾患をもつ子ども (1) 肥厚性幽門狭窄症 (2) 先天性胆道閉鎖症 (3) ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症 (4) 鼠径ヘルニア、陰嚢水腫 8) 血液・造血器疾患のある子ども (1) 白血病 ア 骨髄移植 イ 幹細胞移植 (2) 血友病 (3) 血管性紫斑病	準備:形態機能学Ⅱ・Ⅲ[恒常性維持のための物質の流通/恒常性維持のための調節機構]、生化学、病理学、治療論、臨床検査、疾病治療論Ⅲ・Ⅵについて復習する。 復習:授業内容を復習する。	

6	9) 神経疾患をもつ子ども (1) 脳性麻痺 (2) 神経管閉鎖障害、水頭症 (3) 急性神経疾患:髄膜炎、脳炎	準備:形態機能学Ⅲ恒常性維持のための調節機構]、生化学、病理学、治療論、臨床検査について復習する。 復習:授業内容を復習する。
7	10) 運動器疾患をもつ子ども (1)発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼) (2)骨折	準備:形態機能学Ⅰ、生化学、病理学、治療論、臨床検査、疾病治療論Ⅳについて復習する。 復習:授業内容を復習する。
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験	
テキスト	医学書院 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児看護学[2] 小児臨床看護各論	
参考文献	メディックメディア 病気がみえる 小児科	
履修上の留意事項	子どもに起こりやすい疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学びます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。 疾病治療論Ⅰ～Ⅶで学習する知識を含めるため、復習しておく。	
備考		

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	疾病治療論Ⅰ	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<p>目的: 主な精神疾患・障害の病態生理・検査・診断・治療の基本を理解できる。 目標: 1 精神疾患の病因・症状・検査・診断・治療を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 主な精神疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療 1) 神経発達症候群・神経発達障害群 (1) 知的能力障害群 (2) コミュニケーション症群・障害群 (3) 自閉スペクトラム症・自閉症スペクトラム障害 (4) 注意欠陥・多動症、注意欠陥・多動性障害 (5) 限局性学習症・限局性学習障害 (6) 運動症群・運動障害群	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	2) 統合失調症スペクトラム障害	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。	
3	3) 双極性障害および関連障害群 4) 抑うつ障害群		
4	5) 不安症群・不安障害群	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	6) 強迫症および関連症群、 強迫性障害および関連障害群 7) 心的外傷およびストレス因関連障害群		
6	8) 解離症群、解離性障害群 9) 身体症状症および関連症群 10) 食行動障害および摂食障害群 11) 睡眠－覚醒障害群	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	12) 物質関連障害および嗜癖性障害群 13) 神経認知障害群 14) パーソナリティ障害	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験		
テキスト	メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護		
参考文献	メディックメディア こころの健康がみえる		
履修上の留意事項	精神疾患・障害の診断基準と分類、主な精神疾患・障害の疾患概念・定義・病因・症状・状態・治療を学習し、精神(心)を病むとはどういうことか理解を深めます。そのため、講義前にテキストの該当項目をあらかじめ目を通し予習をすること。また、講義終了後、十分な時間をかけて復習をすること。		
備考			

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	臨床検査	単位数(時間)	1単位 15時間
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
目的: 臨床検査の意義や目的を理解し、検査データを解釈する基礎的能力を習得する。			
目標: 1 主な臨床検査の概要を理解できる。 2 各種検査の基準値、臨床的意義を理解できる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 臨床検査とその意義 1)臨床検査とは (1) 臨床検査の種類 (2) 臨床検査の場面と目的 2)臨床検査結果の評価 (1) 臨床検査結果の解釈、臨床検査値の変動、測定誤差	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	2 一般検査 1) 尿検査 2) 糞便検査 3) 体腔内貯留液検査 4) 脳脊髄液検査 5) 関節液検査 3 血液学的検査 1) 末梢血液検査	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
3	4 化学検査 1) 血清タンパク質の検査 2) 血清酵素の検査 3) 糖代謝の検査 4) 脂質代謝の検査 5) 胆汁排泄関連物質の検査 6) 窒素化合物の検査 7) 腎機能の検査		
4	8) 水・電解質の検査 9) 血液ガス分析 10) 鉄代謝関連検査 5 免疫・血清学的検査 1) 炎症・感染症関連の検査 2) 自己抗体の検査 3) 腫瘍マーカー 4) 輸血に関する検査		
5	6 内分泌学的検査 1) 各種ホルモンの検査		
	7 病理学的検査 1) 細胞診 2) 病理組織検査 3) 剖検診断 8 生体検査 1) 生理機能検査 2) 画像検査		

6	9 臨床検査における RCPC 10 臨床現場における推論と思考的問題解決 (Reasoning,Critical Thinking,Problem-solving) *症例の RCPC をグループワーク	準備:症例について、個人ワークする。 復習:個人ワークした用紙に、授業で学んだ 学習内容を追記する。
7	症例 基礎データ、初診時現症、一般検査からアセスメントし、必要な検査や診断について考える	
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験	
テキスト	医学書院 臨床検査	
参考文献		
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。	
備考		

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	薬理学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 薬物療法を理解するために必要な基礎的な薬理学について理解する。</p> <p>目標: 1 疾患別治療薬の作用機序、副作用などを理解できる。 2 安全な薬物の取り扱い方法を理解できる。 3 看護師として薬物療法の必要性を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 薬理学総論 I 1)薬が作用するしくみ 2)薬の体内動態 3)薬物相互作用	準備:総論を精読し学習する。 復習:課題提出あり。	
2	2 薬理学総論 II 1)小児・妊婦・高齢者の薬物療法 2)薬と法律 3) 医療安全	準備:総論を精読し学習する。 復習:課題提出をする。	
3	3 末梢神経に作用する薬物 1)中枢神経に作用する薬物 2)全身麻酔薬	準備:自律神経について学習する。 授業でプレゼンテーションあり。 復習:授業の復習	
4	4 循環器に作用する薬物 1)虚血性心疾患、心不全、不整脈、 2)脂質異常症、 3)血液凝固系・線溶系に作用する薬物	準備:各疾患について学習する。 授業でプレゼンテーションあり。 復習:授業の復習をする。	
5	4)貧血・造血器作用薬、 5)代謝系疾患治療薬		
6	5 抗精神病薬 1)抗うつ 2)抗不安薬 3)抗てんかん薬 4)パーキンソン治療薬 5)催眠薬	準備:各疾患について学習する。 授業でプレゼンテーションあり。 復習:授業の復習	
7	6 抗感染症薬、消毒薬 1)抗菌薬 2)抗真菌薬 3)抗ウィルス薬 4)駆虫薬 7 糖尿病	準備:消毒薬について学習する。 授業でプレゼンテーションあり 復習:授業の復習をする。	
8	8 抗悪性腫瘍薬 9 免疫抑制薬 10 ホルモン 11 骨粗鬆症	準備:細胞の構造、遺伝子の複製について学習する。 授業でプレゼンテーションあり 復習:授業の復習をする。	
9	12 鎮痛薬 1)非ステロイド性鎮痛薬 2)麻薬性鎮痛薬 3)片頭痛治療薬	準備:テキストの精読をして学習する。 復習:課題レポートあり。	
10	13 呼吸器系作用薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 1)気管支喘息 2)慢性閉塞性肺疾患 3)呼吸中枢	準備:呼吸器の解剖学を学習する。 授業でプレゼンテーションあり 復習:授業の復習をする。	
11			

12	14 消化器系作用薬、生殖器系作用薬 1)消化性潰瘍 2)消化管運動改善薬 3)瀉下剤 4)止瀉剤	準備:消化器の解剖学を学習する。 授業でプレゼンテーションあり。 復習:授業の復習をする。
13	5)催吐薬、制吐薬 15 肝臓・膵臓・胆嚢に作用する薬物	
14 (3h)	16 皮膚科用剤 17 眼科用剤 18 救急時に使用する薬、 19 輸液製剤、血液製剤 20 ビタミン 21 漢方薬 22 濃度計算	準備:テキストの精読をして学習する。 復習:授業の復習をする。
15	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験、レポート プレゼンテーション、授業参加度	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学	
参考文献	羊土社 はじめの一步のイラスト薬理学	
履修上の 留意事項	準備:次回の学習内容についてテキストを精読し学習する。 復習:自主学習及び課題を作成する。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考	この科目は、専門分野の看護と薬理の基礎となる科目であるため、予習復習を行い主体的に学ぶ。	

科目区分	専門基礎分野	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進
授業科目	微生物学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的: 微生物の特徴、および病原微生物を理解する。 感染に対する生体防御、感染症の予防や治療について理解する。 臨床における感染症を理解し、看護を实践する上での基礎知識を学ぶ。</p> <p>目標: 1 微生物(感染)の成立とその防御について理解できる。 2 おもな病原微生物の特徴を理解できる。 3 感染症の予防・治療について理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 微生物学総論 1) 細菌、ウイルス、真菌、原虫、蠕虫の基礎知識	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
2			
3			
4	2 感染と感染症 1)感染から発症後の経過まで 2)細菌・ウイルス・真菌・寄生虫(原虫・蠕虫)感染の機構	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
5			
6			
7	3 感染に対する生体防御機構 1)免疫系とは何か 2)自然免疫、獲得免疫、サイトカイン 3)感染症に対する防御機構	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
8			
9	4 滅菌と消毒 1)定義 2)滅菌法 3)消毒法と種類	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
10	5 感染症の検査と診断	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
11	6 感染症の治療 1)抗菌薬 2)抗ウイルス薬 3)抗真菌薬	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
12 (3h)	7 免疫による予防 1)予防接種の原理とワクチン 2)ワクチンの種類 3)ワクチンの接種法	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
13	8 感染防御学の基礎 1)感染防御に関する法律 2)感染制御対策 3)医療関連感染とその対策 4)環境整備 5)バイオハザードとバイオセーフティ	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の復習をする。	
14			
15	試験		

履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり
評価方法	筆記試験・レポート・授業参加状況
テキスト	医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学
参考文献	臨床微生物・医動物
履修上の留意事項	準備:次回の学習内容についてテキストを精読し学習する。 復習:自主学習及び課題を作成する。
備考	感染に対する生体防御機構は、国家試験での出題も多くみられるため、自己学習で深める必要がある。

科目区分	専門基礎分野	授業科目	栄養学
授業科目	栄養学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 人間が健康を保持・増進、回復するために必要な栄養の基礎知識を理解する。</p> <p>目標:1 健康な生命活動に必要な栄養素の種類とはたらき、栄養の仕組みについて理解できる。 2 ライフステージに沿った栄養について理解できる。 3 食事療法の意味を学び、看護の役割を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 健康と栄養 1) 栄養とは 2) 健康と栄養評価 3) 看護と栄養 4) 食と文化	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の整理をする。	
2	2 日常生活と栄養 1) 食習慣と栄養 2) 日本人の食摂取基準 3) スポーツと栄養	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の整理をする。	
3	3 栄養指導過程 1) 栄養指導の過程 2) 入院患者のための食事の調整 3) 保健指導	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の整理をする。 保健指導についてレポート提出する。	
4	4 食事と栄養 1) 食品の種類と栄養素	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の整理をする。	
5	2) 栄養素とその働き 3) 食物の摂取と消化・吸収		
6	5 ライフステージと健康教育 1) ライフステージに適した栄養・健康指標	準備:テキストを精読し学習する。 各期における食事の特徴についてまとめ、授業中にプレゼンテーションを行う。 復習:授業の整理をする。	
7	2) 妊娠期・授乳期 3) 乳幼児期		
8	4) 学童期 5) 思春期		
	6) 成人期 7) 老年期		
9	6 疾患別食事指導の実際 1) 糖尿病 2) 高血圧症 3) 脂質異常症・肥満症・痛風	準備:テキストを精読し、各疾患について学習し、まとめる。 復習:授業の整理をする。	

10	4) 虚血性心疾患 5) 脳卒中 6) 慢性閉塞性肺疾患 7) 肝炎・肝硬変 8) 膵炎・胆石症	
11	9) 慢性腎臓病 10) 潰瘍性大腸炎・クローン病 11) 胃切除後(周術期) 12) 摂食・嚥下障害 13) 褥瘡	
12	14)演習 栄養指導 1-13 のうちの 5 疾患を抽出しグループごとに疾患を分け、それぞれのグループ内で提示する事例に合わせた退院時の食事指導を発表する。	準備:対象者への指導について自己学習する。 復習:総合演習の5疾患からはずれる疾患に関しては、レポートを作成し、提出とする。 (※他領域科目との関連を検討)
13		
14	7 経管栄養と中心静脈 1)栄養療法 2)経腸栄養法とは 3)中心静脈栄養法とは 4)在宅栄養療法の管理と指導 5)栄養管理におけるチームアプローチ	準備:テキストを精読し学習する。 復習:授業の整理をする。 栄養管理におけるチームアプローチでの看護師の役割についてレポートを作成(800字程度)
15	試験とまとめ	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験・レポート・授業参加状況 グループディスカッションへの積極性とプレゼンテーション	
テキスト	医歯薬出版 看護栄養学 第5版 女子栄養大学出版部 栄養素の通になる 第5版	
参考文献	医学書院 系統看護学講座 栄養学 ナーシンググラフィカ 臨床栄養学 メディカ出版 ヌーベルヒロカワ わかりやすい栄養学 第5版	
履修上の留意事項	準備:次回の学習内容についてテキストを精読し学習する。 復習:自主学習及び課題を作成する。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		